

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年9月16日(2010.9.16)

【公表番号】特表2006-515983(P2006-515983A)

【公表日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【年通号数】公開・登録公報2006-023

【出願番号】特願2004-527956(P2004-527956)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/404	(2006.01)
A 6 1 K	31/496	(2006.01)
A 6 1 K	31/497	(2006.01)
A 6 1 K	31/506	(2006.01)
A 6 1 K	31/517	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
C 0 7 K	16/18	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	9/12	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
C 1 2 P	21/08	(2006.01)
C 1 2 Q	1/48	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/404	
A 6 1 K	31/496	
A 6 1 K	31/497	
A 6 1 K	31/506	
A 6 1 K	31/517	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	35/00	
C 0 7 K	16/18	
C 0 7 K	19/00	
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 N	9/12	
C 1 2 P	21/02	C
C 1 2 P	21/08	
C 1 2 Q	1/48	Z
C 1 2 Q	1/68	A

G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/53	D
C 1 2 N	5/00	A

【誤訳訂正書】**【提出日】**平成22年7月23日(2010.7.23)**【誤訳訂正1】****【訂正対象書類名】**特許請求の範囲**【訂正対象項目名】**全文**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【特許請求の範囲】****【請求項1】**

P D G F R C末端チロシンキナーゼドメインと、F i p 1 L 1のキナーゼ活性化ドメインを含むN末端ドメインとを含む融合ポリペプチドであって、該融合ポリペプチドは、構成的に活性化されたキナーゼ活性を有し、その天然に存在する環境以外で存在し、かつ転座事象の産物ではなく、該キナーゼ活性化ドメインの配列は、

配列番号1の残基1～272；

配列番号2の残基1～257；

配列番号3の残基1～249；

配列番号4の残基1～234；

配列番号1の残基1～339；

配列番号2の残基1～324；

配列番号3の残基1～316；および

配列番号4の残基1～301

からなる群より選択される、融合ポリペプチド。

【請求項2】

前記融合ポリペプチドが、ヒトポリペプチドである、請求項1に記載の融合ポリペプチド。

【請求項3】

配列番号0 1、配列番号0 2、配列番号0 3および配列番号0 4から選択される配列と同じであるかまたは少なくとも95%同一であるアミノ酸配列を有する、請求項1～2のいずれか1項に記載の融合ポリペプチド。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドをコードする、その天然に存在する環境以外で存在するポリヌクレオチド。

【請求項5】

配列番号0 5、配列番号0 6、配列番号0 7および配列番号0 8ならびにそれらの相補体から選択される配列、または配列番号0 5、配列番号0 6、配列番号0 7および配列番号0 8ならびにそれらの相補体から選択されるポリヌクレオチドにストリンジェントな条件下ハイブリダイズする配列と、同一である残基の配列を有する、請求項4に記載のポリヌクレオチド。

【請求項6】

請求項4または請求項5に記載のポリヌクレオチドを含む細胞。

【請求項7】

宿主が過剰増殖性疾患状態に罹患しているか否かの決定にあたって補助する方法であって、該方法は、以下：

請求項1～3のいずれか1項に記載の融合ポリペプチドまたはそのコード配列を含むヌクレオチドの存在について該宿主から得たサンプルをアッセイし、それによりアッセイ結

果を得る工程であって、ここで該アッセイ結果を、該宿主が該過剰増殖性疾患状態に罹患しているか否かを決定するために、利用し得る工程を包含する、方法。

【請求項 8】

前記アッセイ工程が、前記ボリヌクレオチドの存在について前記サンプルをスクリーニングする工程を包含する、請求項7に記載の方法。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の融合ポリペプチドの活性を阻害する薬剤を同定する方法であって、該方法は、以下：

該融合ポリペプチドを、試験薬剤と接触させる工程；および

該融合ポリペプチドの活性に対する該試験薬剤の効果があればこれを決定する工程、を包含する、方法。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の融合ポリペプチドの、そのコード配列からの発現を阻害する薬剤を同定する方法であって、該方法は、以下：

該コード配列を試験薬剤と接触させる工程；および

該コード配列からの該融合ポリペプチドの該発現に対する該試験薬剤の効果があればこれを決定する工程、

を包含する、方法。

【請求項 11】

サンプルにおける請求項 1 ~ 3 に記載の融合ポリペプチドの存在について該サンプルをスクリーニングする方法であって、該方法は、以下：

(a) 該サンプルの残留する成分からチロシンリン酸化タンパク質を分離し、サンプル由来のチロシンリン酸化タンパク質集団を產生する工程；および

(b) 該サンプル由来のチロシンリン酸化タンパク質集団の成分メンバーを、前記 P D G F R チロシンキナーゼドメインと、前記 F i p 1 L 1 のキナーゼ活性化ドメインとの存在について評価する工程、

を包含する、方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 0】

本発明の融合ポリペプチドは、代表的に、第 4 染色体キナーゼ活性化タンパク質の一部のみを含み、従って、これらはこのタンパク質のアミノ酸配列全体を含まない。この部分は、代表的にこのタンパク質の N 末端の部分またはドメインであり、融合タンパク質において C 末端キナーゼドメインに融合する場合、融合タンパク質のキナーゼドメインの構成的活性化をもたらす。本発明の融合ポリペプチドに存在するこの部分またはドメインの長さは、代表的に、この部分の元の全長第 4 染色体タンパク質より、少なくとも約 1 % 短く、通常少なくとも約 5 % 短く、より通常は少なくとも約 10 % 短い（残基数に関して）。多くの実施形態において、本発明の融合ポリペプチドにおいて見出される N 末端第 4 染色体キナーゼ活性化ドメインは、少なくとも約 50 残基であり、通常は少なくとも約 100 残基であり、より通常は少なくとも約 200 残基であり、ここで、この N 末端ドメインの長さは、多くの実施形態において代表的に、約 50 ~ 約 350 残基、通常は約 200 ~ 約 350 残基、そしてより通常は、約 300 ~ 約 350 残基である。